

# 明治維新、首都東京を支えた男 ゆりきみまさ 由利公正 を明治維新 150年（平成30年）の大河ドラマに

## 1 現代に通じる由利公正



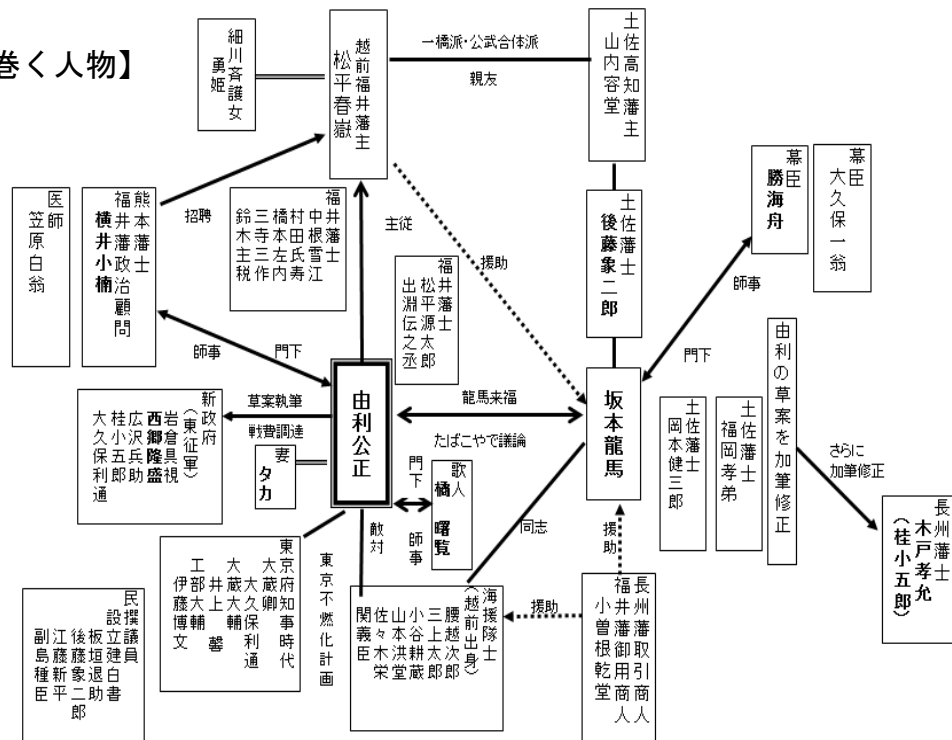
- 由利は、福井藩と国の両方で活躍した人物であり、地方出自の人材の活躍により国が発展することは、今日の地方創生の目指す姿に通じるものである。
- 由利財政の柱の一つは各地の殖産であり、地方を豊かにすることで国を豊かにすることが構想されていた。由利の構想は今日の我が国の目指すべき方向と一致する。
- 由利公正こそ明治維新150年の大河ドラマの主人公にふさわしい。

### 【由利公正の略歴】

生没：文政12年（1829）～明治42年（1909） 幕末の福井藩士。明治維新まで三岡八郎を名乗る。

- ・文政12年（1829）福井城下毛矢に生まれる。
- ・福井に来遊した横井小楠の学問に影響を受け、藩財政を研究。殖産興業策を進め藩財政を黒字化した。
- ・慶応3年（1867）、坂本龍馬が、新政府への八郎の参画を求め来訪。
- ・維新後は新政府の参与となり財政を担当。また、五箇条御誓文の草案を起草。
- ・明治4年（1871）には廃藩置県後初代東京府知事となり、翌年、岩倉欧米視察団に随行。
- ・その後元老院議員、貴族院議員を務める。
- ・81歳で没。

### 【由利公正を取り巻く人物】



## 2 明治維新における由利公正の業績

明治維新の立て役者は西郷隆盛や木戸孝允達ということになっている。しかし、明治維新を支えた一番の功労者は由利公正ではないだろうか。

由利は五箇条の御誓文の起草者である。御誓文は以後、明治維新の指導精神として、近代国家建設のさまざまな施策に受け継がれた。また太政官札を発行し新政府の運営費を賄った。

### ①五箇条の御誓文の起草

坂本龍馬が新政府の方針として創った「船中八策」をさらに吟味し、「議事之体大意」を著した。「議事之体大意」は、明治元年3月14日、新政府が公布した国家の基本方針＝「五箇条の御誓文」の原型となった。

### ②太政官札の発行

わが国最初の全国通用紙幣、太政官札の発行を建議し、明治元年4月から明治2年5月まで発行する。これにより明治政府の殖産興業諸改革の莫大な費用は賄われ、国家経済は成長路線に乗り、廃藩置県や地租改正も可能になった。

### ③殖産興業政策の推進

府知事時代、明治5年5月から翌6年2月まで、欧米視察に参加した際、絹布見本数種を持ち帰り、廃藩置県後機業にかかわっていた旧福井藩士に渡し、従来の越前奉書紬の品質改良を促した。福井において繊維産業が隆盛を誇るきっかけとなる。

### ④東京不燃化計画の策定・実行

東京府知事任命後発生した明治5年2月の大火で約5千戸、28万余坪を焼失したことを受け、抜本的な都市改造が必要だと考え、街路を広くすることや、不燃性の煉瓦建築にするなど大規模な不燃性都市化計画を提案、実現させた。

### ⑤民撰議院設立の建白

明治7年1月、板垣退助、副島種臣、江藤新平らとともに、民撰議院の設立建白を行う。